

(様式2)

令和5年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和5年9月27日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者（申請者）

所 属 理工学部
職 名 教 授
氏 名 三島 伸雄

下記のとおり令和5年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	日澳国際建築都市デザインワークショップ		
2.事業責任者 (申請者)	三島伸雄	3.所属・職名	自然科学域理工学系 教授
4.開催期間	令和5年8月28日 ～ 令和5年9月4日（渡航期間:8月26日～9月7日）		
5.申請区分	A) 学術交流協定（大学名） B) 共同研究 C) 一般		
6.参加者数 ※参加者名簿（別添）を 添付	参加者数 47 名 内、外国人数 11 名、研究者数 9 名、 学部学生数 30 名、修士以上学生数 2 名		
7.招待講師	所 属 ウィーン工科大学 JASEC（日本オーストリア交流センター） 職 名 センター長, 上級講師, Dr. 氏 名 Iris Mach 所 属 ウィーン工科大学 JASEC（日本オーストリア交流センター） 職 名 上級講師, Dr. 氏 名 Thomas 所 属 ウィーン工科大学 JASEC（日本オーストリア交流センター） 職 名 講師・博士 氏 名 Barbara Rief-Vernay 所 属 ウィーン工科大学 建築プランニング学部 職 名 講師・博士 氏 名 Dr. Meinhard Breiling		

	所 属 <u>タリン工科大学</u> 職 名 <u>研究教授・博士</u> 氏 名 <u>Fabian Dembski</u>
8.支出額	金 額 <u>250,000</u> 円 【内訳】 <u>謝金</u> 円 <u>旅費</u> <u>250,000</u> 円（佐賀大学学生の渡航費支援） <u>消耗品費</u> 円
9.国際研究集会の内容（実施の様子について、2～3枚程度写真をご提供ください）	
（相手国・地域：オーストリア 相手機関：ウィーン工科大学） 本共同研究は、2015年度から継続的に行っている環アジア国際セミナーの一環として、国際研究集会を行なっているものであり、昨年度2月にウィーン工科大学から学生を招いて実施したことに対して、ウィーン工科大学日澳科学交流センターから呼びかけられたものである。建築・都市デザインの観点から、歴史的都市景観の保全・再生・活用に向けた空間的提案型研究をウィーン工科大学の学生・教員とともに共同で行う。 ウィーンは世界遺産に選定されている歴史的都市であるが、そこには、ナチス・ドイツが進駐してきた際にウィーン都心部（ウィーン市都市計画により指定された保存地区）を包囲して監視するためにつくられた監視塔（フラクトウム）がある。それは、ウィーン出身であるアドルフ・ヒトラーがウィーンで認められなかったことやオーストリアが多くのユダヤ人を擁護していたことに対するものがあったとも言われている。ある意味で歴史的な負の遺産ではあるが、分厚いコンクリートで作られているため爆破することができず残っており、ウィーンの歴史を語る生き証人（文化財）として保護されている。全部で3箇所2基ずつ合計6基あり、水族館として活用されているものもあるが、何も活用されずに放置されているものもある。 本ワークショップでは、その活用されていない1基（アウガルテン）について、その活用案を国際ワークショップで検討して提案・発表・意見交換を行なった。建築・都市デザインを学ぶ日本人学生にとっても、これまで知らない海外の様々な国際事情や歴史的環境を知ることができ、逆に我が国の国際事情や歴史的環境について若い世代からみた提案やそれに対する意見交換を行うことができた。 その他、東洋大学の観光学の教員・学生が後半で合流することになっており、本ワークショップの研究成果の共有・意見交換等を行なった。 また、ウィーンの伝統的町並み、近代建築（世紀末建築）、現代建築等を視察し、学生にそれぞれの特徴の解説等を行なった。	



フラクトウルムの前での集合写真



提案資料作成作業中の学生たち



プレゼンテーションでの意見交換の様子



集合写真



ウィーン工科大学・東洋大学・ウィーン工科大学参加者の集合写真



オット・ワグナー設計 中央郵便局での集合写真

10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

本事業によって、フラクトウルムという負の歴史的資産について理解を深め、学生3グループによる提案を行うことができた。各々の提案は、「いやし」「Library」「交流」などをテーマとしたもので、機能、空間デザインなど、短期間ではあったが、非常にユニークで、ウィーン工科大学教員側からも非常によい反応を得ることができた。今後のウィーンの空間活用に対しても意味のある提案作業を行うことができたと考えられる。また、これらの成果物は、時間をかけて成果物としてまとめていくことが議論された。

東洋大学観光学部の学生、東京芸大からの交換留学生等とも合流し、ワークショップやこれからの共同研究の可能性等について意見交換を行なうことができた。

視察においては、ウィーンに留学経験のある三島から詳細な説明を行い、佐賀大学学生の専門知識を高めることができた。

11. 実施者アンケート

本事業の満足度（5（非常に良い）～1（非常に悪い））：5

支援経費は適切であったか（5（非常に適切であった）～1（非常に適切でなかった））：3

次年度以降も本事業の実施を希望するか：希望する

そのほかコメント：

予算がもう少しあるといいと思いますが、贅沢は言えないかなとも思っています。

国際交流は、お金がかかり、かつ外部資金だけでは補いきれないところが多いので、ありがたいです。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。

※写真は学内外へ発信する広報に活用するため、映っている方々からの使用許諾済みのものをお送りください。また、写真データ（jpg または png）の送付をお願いいたします。（Word 貼付けとは別に）